

昭和十三年七月二十七日會議議案

秘

昭和十三年七月廿七日	決議
昭和十三年八月四日	公布
勅令第五四號	

臺灣總督府官制中改正ノ件
参照 添附

勅令第

號

臺灣總督府官制中左ノ通改正ス

第十七條第二項ヲ左ノ如ク改ム

文教局ニ附屬國民精神研修所ヲ置キ

國民精神ノ研修ニ關スル事務ヲ掌ラ

シム

第十九條第一項中「事務官

專任三十三

人 奏任内一人ヲ勅任ト「事務官」專
任三十三人 奏任内二人ヲ勅任ト「統
計官」專任一人 奏任「體育官」專任
一人 奏任「翻譯官」專任二人ヲ「翻譯
官」專任三人ニ屬 專任二百四十二人
ヲ屬 專任二百四十五人ニ「技手」專任
百六十二人 判任「技手」專任百
六十二人 判任「體育官補」專任一

六十四人 判任ニ改ム

同條第二項ヲ左ノ如ク改メ同條第三項
ヲ削ル

國民精神研修所ニ指導官專任一人ヲ
置ク奏任トス

第二十七條ノ三ヲ削リ第二十七條ノ二
ヲ第二十七條ノ三トス

第二十七條ノ二 體育官ハ文教局ニ屬
シ上官ノ命ヲ承ケ體育運動及學校衛
生ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十七條ノ四 國民精神研修所指導
官ハ上官ノ命ヲ承ケ國民精神ノ研修
ニ關スル指導ヲ掌ル

第三十二條ノ二 體育官補ハ文教局ニ

屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ體育官ノ事務
ヲ助ク

第三十三條中「測候所」ヲ「國民精神研修所」
ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府官制

明治三十二年
勅令第百六十二號

第十七條 總督府ニ總督官房ノ外左ノ五局ヲ
置ク

内務局

文教局

財務局

殖産局

警務局

内務局ニ測候所ヲ附屬セシム

又教育ニ關スル事務ハ文部省ニ屬スルコトヲ定ム

神ノ研修ニ關スル事務ヲ掌ラシム

(下略)

第十九條 總督府ニ左ノ職員ヲ置ク

(中略)

事務官 專任三十三人

奏任
内一人ハ初任
ト爲スコトヲ得

(中略)

體育官 專任一人

奏任

統計官 專任一人

奏任

翻譯官 專任二人

奏任

屬 專任二百三十二人
判任

(中略)

技手 專任百六十二人
判任

判任

通譯 專任一人
判任

各測候所ヲ通シテ技師六人及技手三十四人

ヲ置ク

國民精神研修所ニ指導官專任一人ヲ置ク

測候所技師ハ奏任、測候所技手ハ判任トス

第二十五條 事務官及理事官ハ上官ノ命ヲ承

ケ總督官房及各局ノ事務ヲ掌ル

第二十七條ノ二 體育官ハ、農林省ノ屬シ上官

命ヲ承ケ體育運動ノ振興ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十七條ノ三 統計官ハ上官ノ命ヲ承ケ統

計ヲ掌ル

第二十七條ノ三 測候所技師ハ上官ノ命ヲ承

ケ氣象ニ關スル事務ヲ掌リ測候所技師ハ上

官ノ指揮ヲ承ケ氣象ニ關スル事務ニ従事ス

第二十七條ノ四 國民精神研究所指導官ハ上

官ノ命ヲ承ケ國民精神ノ研修ニ關スル指導

ヲ掌ル

第二十八條 翻譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ

掌ル

第二十九條 屬技手及通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ

庶務技術通譯ニ従事ス

第三十二條ノ二 體育官補ハ文教局ニ屬シ上

官ノ指揮ヲ承ケ體育官ノ事務ヲ助ク

第三十三條 測候所國民精神研究所、獸疫血清

製造所、營林所、營林所出張所及度量衡所ノ名

昭和十三年度

参照

臺灣總督府官制中改正案

勅令第

號

臺灣總督府官制中左ノ通改正ス

第十七條第二項ヲ左ノ如ク改ム

文教局ニ附屬國民精神研修所ヲ置キ國民精神ノ研修

ニ關スル事務ヲ掌ラシム

第十九條第一項中「事務官 專任三十三人 奏任内一人

ト爲スコ」ヲ「事務官 專任三十三人 奏任内二人ヲ勅任ト

「統計官 專任一人 奏任」ヲ「體育官 專任一人

人 奏任「二、翻譯官 專任二人」ヲ「翻譯官 專任

三人」ニ、「屬 專任二百四十二人」ヲ「屬 專任二百

四十五人」ニ、「技手 專任百六十二人 判任」ヲ「技

手 專任百六十四人 判任」ニ改ム
育官補 專任一人

同條第二項ヲ左ノ如ク改メ同條第三項ヲ削ル

國民精神研修所ニ指導官專任一人ヲ置ク奏任トス

第二十七條ノ三ヲ削リ第二十七條ノ二ヲ第二十七條ノ

三トス

第二十七條ノ二 體育官ハ文教局ニ屬シ上官ノ命ヲ承

ケ體育運動及學校衛生ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十七條ノ四 國民精神研修所指導官ハ上官ノ命ヲ

承ケ國民精神ノ研修ニ關スル指導ヲ掌ル

第三十二條ノ二 體育官補ハ文教局ニ屬シ上官ノ指揮

ヲ承ケ體育官ノ事務ヲ助ク

第三十三條中「測候所」ヲ「國民精神研修所」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由書

南支南洋施設充實ノ爲事務官一人ヲ勅任官タラシムル
ト共ニ翻譯官一人ヲ増員スルノ要アルト體育運動及學
校衛生ニ關スル事務ノ爲體育官一人及體育官補一人並
ニ國民精神研修所設置ノ爲之ニ關スル規定ヲ設クルト
共ニ指導官一人ヲ設置スルノ要アルト外國貿易統計整
備改善ノ爲屬一人、外國爲替管理事務ノ爲屬二人、商
工會議所指導監督ノ爲屬一人、森林施業案造林實行ノ

爲技手一人、潤葉樹材利用開發ノ爲技手一人ヲ増員ス
ルノ要アルト氣象機關ヲ臺灣總督府官制ヨリ獨立セシ
ムルニ伴ヒ測候所ニ關スル條文ヲ整理スルト共ニ測候
所技師六人、屬一人及測候所技手三十四人ヲ減員スル
ノ要アルトニ由ル

増員説明書

增員説明目次

第一	南支南洋施設充實ノ爲	六
第二	體育運動及學校衛生ニ關スル事務ノ爲	一〇
第三	國民精神研修所設置ノ爲	一二
第四	外國貿易統計整備改善ノ爲	一六
第五	外國爲替管理ニ關スル事務ノ爲	一八
第六	商工會議所指導監督ノ爲	二一
第七	森林施業案造林實行ノ爲	二三

第八 潤葉樹材利用開發ノ爲

二五

第九 氣象ニ關スル官制制定ニ伴フ臺灣總督府

官制中關係條文ノ整理竝ニ測候所技師六

人、屬一人及測候所技手三十四人ヲ氣象

ニ關スル職員ニ組替

二九

説明書

第一 南支南洋施設充實ノ爲

事務官 一人勅任ニ組替

翻譯官 一人増員

官房外務部

一 今次聖戰ノ進展ニ伴ヒ本島ヲ圍繞スル南支及南洋

列國各殖民地ニ對スル帝國ノ工作如何ハ東洋平和

確立ノ上ニ愈重大ナル關聯ヲ有スルニ至レリ從テ

帝國南方ノ礎石タル本島ノ使命ハ一段ト其ノ重要

性ヲ加ヘ南支南洋ニ對スル本府ノ事務ハ愈繁忙ト

爲り來レリ而シテ本府ハ多年南方ニ對スル諸施設
ニ多大ノ努力ヲ注ギ來レルモノナルカ一層之カ刷
新ノ必要ヲ認メタル結果昭和十年官房外事課ノ設
置ヲ見之ヲシテ本府ニ於ケル涉外事務ノ統制及南
方關係施設ノ進拓ニ當ラシメ來レル處爾來僅ニ二
年ヲ經過シタルニ過キサルニ其ノ實績相當見ルハ
キモノアリ即チ對岸福建省ニ對スル工作ノ如キハ
今次ノ事變前ニ於テハ多大ノ進展ヲ示シ藉スニ更

ニ一兩年ノ歲月ヲ以テシタリセハ兩者ノ間相當鞏
固ナル文化的竝ニ經濟的提携結成ノ域ニ達シタル
ヤ疑ヲ容レサル所ナリ又從來諸種ノ障害アリ邦人
ノ斷念シテ顧ミサリシ佛領印度支那ニ於テハ臺灣
拓殖會社ノ子會社タル安南鐵礦ノ設立ヲ見其ノ他
本島人ノ南洋移民ノ募集、南洋邦人企業ノ助成、
南方各地トノ技術者ノ交換、記者團ノ招聘、對日
輿論ノ啓發等本府ノ我國南方進展ニ寄與シツツア

リタルハ顯著ナル事實ニシテ今後益其ノ活動ニ俟
ツ所大ナルモノアリ

二然ルニ現在外事課ハ官房ノ一課ニ過キス之カ課長
ハ奏任官ナルヲ以テ其ノ地位必スシモ重カラス爲
ニ府内各部局ノ涉外事務ノ統制、南方發展ヲ目的
トスル各種團體又ハ個人ノ指導監督、軍部其ノ他
ノ官衙トノ折衝、本府兼任事務官又ハ囑託タル在
南支南洋領事官トノ連絡、南洋華僑ノ操縱上等ニ

於テ遺憾ノ點尠カラス依テ差當リ外事課ヲ外務部
ト改稱スルト共ニ之カ課長ヲ勅任ニ昇格セシメ時
局柄愈重要性ヲ加ヘ來リツツアル本府外事行政ノ
首腦者トシテ内外ニ重キヲ爲サシムルノ要アリ

三次ニ今次事變ノ進展ニ伴ヒ對岸ニ對シ本府トシテ
爲スヘキ重要工作ハ本府經營ノ福州閩報、廈門全
閩新日報ノ活躍ト支那新聞紙ノ操縱指導トニ在リ
卽チ之等言論機關ヲ通シ對白感情ノ根本的是正、

民意ノ啓發收攬ニ努ムルト共ニ他面南洋ニ於テ牢固タル實勢力ヲ有シ且南支經濟ヲモ左右シツツアリト稱セラルル南洋華僑ニ呼ヒ掛ケサルヘカラス而シテ之カ爲ニハ絶エス支那語ノ新聞紙及定期刊行物等ニ依リ對日輿論ノ動向ヲ察知シ又無限ノ資源ヲ包藏スル南支南洋事情ヲ本邦ニ紹介シ更ニ臺灣ノミナラス帝國ノ文化、産業其ノ他各方面ノ現狀ノ支那語ニ依ル紹介宣傳ヲ爲シ以テ彼我ノ文化的經濟的連鎖竝ニ貿易ノ促進ニ資スルノ要アリ

四 然ルニ現在外事課ニ於ケル翻譯及通譯ニ從事スル職員ハ翻譯官一人及通譯一人ノミニシテ而モ之等ハ何レモ英語ニ通スル者ヲ以テ之ニ充テ主トシテ外國人關係事務ヲ擔當セシメ居ルニ過キス前述ノ如キ事務ヲ分擔セシムルノ餘力ナク已ムヲ得ス囑託員ヲ以テ之ヲ擔當セシメ居ル現狀ニシテ今後増加スヘキ支那語ノ翻譯及通譯ノ事務ノ必要ニ應ス

ルハ到底不可能ノ實情ニ在リ依テ新ニ支那語ニ通
スル翻譯官一人ヲ外務部ニ増員配置セントス

第二 體育運動及學校衛生ニ關スル事務

體育官 一人設置

體育官補 一人設置

文教局學務課

一 近時我國ニ於ケル國民ノ體位ハ漸次低下ノ傾向ヲ
示シ死亡率、罹病狀況、平均壽命等モ他ノ文明國
ノソレニ比シ遙ニ劣惡ナルノミナラス青壯年間ニ
於ケル結核病ノ蔓延、學生生徒間ニ於ケル近視及
齲齒ノ累増、壯丁検査ニ於ケル筋骨薄弱者ノ激増
等眞ニ寒心ニ堪ヘサル狀態ヲ現出シツツアリ依テ

内地ニ於テハ夙ニ國民ノ健康増進體力ノ向上ヲ期
スヘク文部省ニハ體育官ヲ、北海道廳及各府縣ニ
ハ體育運動主事及學校衛生技師ヲ設置シ體育運動
及學校衛生ニ關スル事務ヲ掌ラシメ來レルカ今般
更ニ急速且徹底的ニ國民健康ノ増進及體力ノ向上
ヲ圖リ以テ國力ノ飛躍的増進ヲ企圖スルノ急務ナ
ルヲ認メラルルニ至リ厚生省ノ新設ヲ見タル理由
ノ一半モ亦茲ニ在リ

ニ翻ツテ本島ノ實情ヲ觀ルニ氣候風土ノ關係上保健
狀態一般ニ良好ナラス住民ノ體位モ亦低下シ居レ
ルカ殊ニ學生生徒兒童ノ身體發育ノ狀況ハ内地ノ
ソレニ比シ著シク劣惡ナル狀態ニ在リ然ルニ本島
ニ於テハ右ニ對スル施設甚タ不備ニシテ未タ體育
衛生ニ關スル專任職員ノ設置スラモナク已ムヲ得
ス總督府ニ兼任者タル技師一人ヲ置キ學校衛生、
學生生徒兒童ノ身體檢查及體育運動ニ關スル事務

ヲ擔任セシメ居ルニ過キス斯クテハ帝國南方ノ生命線ヲ確保シ國運ノ發展ヲ期スル上ニ於テ遺憾ニ堪ヘス之カ改善ノ對策ヲ講スルハ極メテ緊要ナルコトニ屬スルヲ以テ差當リ本府文教局學務課ニ體育官一人、體育官補一人ヲ設置シ速ニ體育運動及學校衛生ニ關スル各種ノ調査研究ヲ行ヒ以テ適正ナル對策ヲ樹立スルト共ニ地方ニ於ケル之カ事務ノ指導監督ニ當ラシメントス

第三 國民精神研修所設置ノ爲

國民精神研修所指導官 一人設置 國民精神研修所

一 萬邦ニ比類ナキ我カ國體ノ本義ヲ明徹ニシ同化ノ徹底ヲ期スルハ本島統治ノ根本方針ナリ故ニ本府ニ於テハ學校教育ノ普及徹底ヲ圖ルト同時ニ特ニ社會教化事業ノ伸張ニ意ヲ用ヒ國語ノ普及、部落ノ教化、青少年ノ訓練、陋習ノ打破等各般ノ施設ヲ行ヒ以テ島民ノ國民的自覺ノ昂揚ニ努メ自發的

ナル公民活動ヲ促進スルト共ニ其ノ生活ノ改善向上ニ努力シ來リシ結果近年ニ至リ教化振興ノ氣運全島ニ熾然トシテ起リ殊ニ今次事變ノ勃發ヲ見ルヤ中央地方ヲ通シテノ國民精神總動員ノ運動ト相俟チ本島人中或ハ軍夫ヲ志願シ或ハ銃後ノ扶助、献金ノ申出ヲ爲ス者等續出シ國民的自覺ノ徵候洵ニ顯著ナルモノアリ然リト雖モ本島統治ノ根本使命並ニ現下時局ノ要求ニ照シ之ヲ觀ルトキハ其ノ

國語ノ普及ノ程度ニ於テ、日本精神體得ノ程度ニ於テ將又各種精神訓練ノ程度ニ於テ未タ漸ク其ノ緒ニ著ケルニ過キスシテ同化ノ徹底ハ寧ロ全ク今後ニ於ケル努力ノ如何ニ係ルモノト謂フヘシ而シテ歴史ト人情風俗トヲ異ニシ全人口ノ九割四分ヲ占ムル本島人ニ對スル皇民化ノ徹底ハ洵ニ容易ナラサル難事ニシテ眞ニ官民一體、全島一丸ト爲リ統治ノ方針ニ付テノ確固不拔ノ信念ノ下ニ長期間

ニ亘ル不斷ノ努力精進ニ俟ツヘキモノニシテ之カ
爲特ニ重要ナルハ右運動ニ最適ナル時期ヲ捉ヘテ
全島のニ其ノ氣運ノ中ニ溶融セシムルコトト確タ
ル國民的信念ト教化ニ對シ燃ユル力如キ熱意トヲ
有シ身ヲ挺シテ民衆ノ指導ニ當ルヘキ優秀ナル指
導者ヲ得ルコトニ在ルモノトス

ニ然ルニ今ヤ國民精神總動員ノ氣運ハ澎湃トシテ全
島ニ漲リ本島人側ヨリノ自發的ナル皇民化ノ欲求

ノ熾烈ナル領臺四十年未タ曾テ之ヲ看ザルモノアリ

只此際眞ニ遺憾トスル所ノモノハ此ノ愛國の氣運

ヲ捉ヘテ之ニ一般ノ拍車ヲ懸ケ本島皇民化運動ニ

一新紀元ヲ劃スヘク第一線ニ立チ自ラ率先シテ民

衆ノ範ト爲ルニ足ルヘキ指導者ノ尠キコトトス依

テ本府ニ於テハ右ニ鑑ミ臺灣神社外苑ノ聖地ヲ擇

ヒ新ニ國民精神研修所ヲ設置シ文教局ニ所屬セシ

メ以テ學校職員、社會教育職員ヲ始メ各種社會教

化施設ノ指導者、社會教化ノ擔任者、地方中堅青年等ヲ順次一堂ニ集メ本島統治ノ根本方針ニ基ケル教化信念ノ體得及島民教化ノ理論ト實際トヲ主トシテ行ト體驗トヲ通シテ修得セシメ眞ニ國家的信念ト教化熱トニ燃ユル教化指導者養成ノ中心機關タラシムルト共ニ兼ネテ官民一般ノ國民精神ノ陶冶ノ道場タラシメントス

三而シテ右國民精神研修所ノ機能ヲ充分ニ發揮シ其ノ運営ニ遺憾ナカラシメンカ爲ニハ眞ニ識見人格共ニ兼備シ而モ熱ト氣魄ト實行力トヲ以テ身自ラ之等教化指導者ヲ薰陶推服セシムルニ足ルヘキ精神的ナル指導者ヲ必要トスルヲ以テ茲ニ差當リ新ニ國民精神研修所指導官一人ヲ設置シ專ラ國民精神研修所ニ於ケル修養鍛鍊ノ指導ニ當ラシメントス

第四 外國貿易統計整備改善ノ爲

屬 一人増 財務局 稅務課

一 現下ノ國際經濟及貿易ノ情勢ニ鑑ミ輸出貿易ノ振興並ニ輸出入統制ノ圓滑ヲ圖ルハ刻下ノ急務タル處之カ目的達成ノ爲ニハ輸出振興方策樹立ノ基礎、對外商取引ノ指針、通商交渉並ニ輸出入統制實施上必要ナル資料ト爲ルヘキ外國貿易統計ヲ整備改善スルノ要アリ

二而シテ内地ニ於テハ輸出振興ヲ圖ル爲ノ外國貿易統計整備改善方策トシテハ貿易旬報ノ品目並ニ輸出統計品目及輸出入國別ノ増加、現行外國貿易月表ノ整備擴充ヲ圖ルノ外輸出小包郵便物細目統計、輸出品ノ國內產地別及内外產原料別統計、輸出品平均價格表等ヲ作成スルコト爲リ又輸出入品統制實施ノ爲必要ナル資料トシテノ統計整備ニ付テハ輸出

入業者別輸出入品特別統計ノ作成、輸出品生産情況、輸入品及其ノ代替品生産情況等ヲモ調査研究スルコトト爲レルヲ以テ臺灣ニ於テモ之ニ對應シテ統計内容ノ充實及諸統計表ノ作成ヲ行フト共ニ内臺貿易統計ニ付テモ統制實施上必要ナル範圍ニ於テ適當ナル整備改善ヲ行ハントス

三然ルニ現在臺灣ニ於ケル外國貿易統計ノ内容ハ現行内地ノ夫ニ比シ遙ニ簡略ナルヲ以テ内地ノ方策

ニ順應シ相當程度ニ擴充スルカ爲ニハ自然事務ノ
増加ヲ來シ現在職員ヲ以テシテハ到底之ニ應シ難
キニ付差當リ財務局稅務課ニ屬一人ヲ増員セント
ス因ニ稅關ニハ曩ニ臺灣總督府稅關官制中改正ニ
依リ基隆及高雄兩稅關ニ屬二人宛ヲ増員セラレタ
ルヲ以テ既ニ之カ統計基本資料ノ調製ニ從事セシ
メツツアリ

第五 外國爲替管理ニ關スル事務ノ爲

屬 二人組替 財務局金融課

一 昭和六年十二月金輸出禁止以來圓價ノ對外價值暴
落シ資本ノ海外逃避盛ト爲ルヤ政府ニ於テハ之カ
對策トシテ昭和七年七月一日資本逃避防止法ヲ施
行シタルモ其ノ後圓價ノ實勢ハ尙樂觀ヲ許ササル
モノアリシ爲更ニ昭和八年五月一日外國爲替管理
法ヲ施行シ資本逃避防止法ニ代ヘ内地ニ於テハ大

藏省令第七號ヲ以テ同法ニ基ク命令ヲ、本島ニ於
テハ府令第五十七號ヲ以テ臺灣外國爲替管理規則
ヲ公布シ之カ取締ヲ爲シ來レリ而シテ本府ニ於テ
ハ右事務ニ從事セシムル爲昭和八年度ニ於テ臨時
職員タル屬ニハヲ増員シテ之ヲ財務局金融課ニ配
置シ翌九年度更ニ屬ニハヲ増員シテ之ヲ基隆、高
雄ノ兩税關ニ配置シ本事務ノ處理ニ當ラシメ來リ
シカ外國爲替管理事務ハ現下ノ我國内外ノ情勢ニ
鑑ミ益之ヲ強化スルノ必要アリシニ依リ數次ニ立
リ臺灣外國爲替管理規則ヲ改正シ之カ取締ノ範圍
ヲ擴張スルト共ニ昭和十二年一月内地ニ於テハ大
藏省令第一號輸入貨物代金ノ決済及外國爲替銀行
ノ海外指圖ニ依ル支拂ノ制限ニ關スル外國爲替管
理法ニ基ク命令ノ件ノ公布ヲ見タルカ本島ニ於テ
モ之ニ應シ府令第三號ヲ公布シ輸入ノ爲ニスル爲
替取引信用狀取得ノ如キ從來許可ヲ要セサリシモ

ノニ付テモ一月ヲ通シ三萬圓以下（其ノ後ノ改正
ニ依リ現在ハ百圓以下トス）ノモノヲ除クノ外總
テ許可ヲ要スルコトト爲レル等外國爲替管理事務
ハ一層複雑廣汎ト爲リ從來ノ人員ノミニテハ到底
之カ圓滑ナル遂行ヲ期シ得サルコトト爲リタルヲ
以テ昭和十二年十二月臨時職員タル事務官一人及
屬三人ヲ金融課ニ、屬二人ヲ税關ニ増員配置シ以
テ今日ニ至レリ

ニ然ルニ昭和八年公布セラレタル臺灣外國爲替管理
規則ノ施行ニ伴フ事務ハ恒久的ナルモノト認めラ
ルルニ至リタルヲ以テ同年外國爲替管理ニ關スル
事務ニ従事スル爲設置セラレタル金融課配置ノ臨
時職員屬二人ヲ經常部ニ組替本事務ニ當ラシムル
ノ要アリ

第六 商工會議所指導監督ノ爲

屬 一人組替

殖産局商工課

一本島ニ於ケル都市商工業ノ現状並ニ業務興ノ趨勢ニ鑑ミ之カ圓滿ナル發達ヲ期スル爲商工會議所制度ノ必要ヲ認メ昭和十一年十月二十七日律令第四號ヲ以テ臺灣商工會議所令ヲ公布シ同十二年十月一日ヨリ之ヲ施行シタル處爾來該當各都市ニ於テハ何レモ着々之カ設立手續ヲ履行シ將ニ其ノ

活動ヲ開始セントシツツアリ

ニ而シテ元來商工會議所ハ商工業ノ改善發達ヲ圖ル
機關ナルモ本島ノ如ク住民ノ自治的訓練未タ充分
ナラス且内臺人共存ノ地ニ於テハ之カ圓滿ナル運
用ニ付テハ相當困難ヲ豫想セラルルノ特殊事情ア
ルニ鑑ミ法制上其ノ議員ニ付半数官選制度ヲ採用
セルノ外議員ノ解任、役員ノ選任解任及理事ノ任
免ニ付臺灣總督ノ認可ヲ要スルコト爲シタル等
特殊ノ規定ヲ設ケテ監督ヲ嚴重ニシタルト共ニ實
際ニ當リテモ議員ノ選舉、目的タル事業ノ遂行等
ニ付充分ナル指導監督ヲ與ヘ以テ制度ノ運用ニ遺
憾ナキヲ期スルノ要アリ

三然ルニ商工會議所ニ關スル事務ヲ所管スヘキ殖産
局商工課ニ於テハ近時商工事務激增シツツアルニ
際シ現在職員ヲ以テ之カ指導監督事務ヲ處理セシ
ムルハ甚タ困難ナルヲ以テ曩ニ臺灣商工會議所令

施行ニ關スル事務ニ從事スル爲設置セラレタル臨時職員屬一人ヲ經常部ニ組替ヘ本事務ニ當ラシムルノ要アリ

第七 森林施業案造林實行ノ爲

技手 一人増 營林所束部出張所

一 治水及國土保全ノ目的ト林産ノ保續ノ圖ル目的トヲ以テ大正十四年度以降主要國有林野ノ合理的經營法ニ付調査シタル第一次森林計畫事業ハ昭和十年年度ヲ以テ其ノ事業ヲ完了シ之ニ依リ編成セラレタル森林施業案ハ其ノ編成ヲ終リタルモノヨリ逐次實行ニ移シ昭和十一年度ニ於テハ全二十九事業

區、總面積八十七萬八千餘甲ニ對シ之カ實施ヲ見ルニ至レリ

ニ而シテ右二十九事業區中林產物ノ處分及造林ヲ併セ實行セル二十四事業區ニ對シテハ既ニ各事業區（宜蘭事業區ヲ除ク）ニ付其ノ實行ニ關スル事務ニ從事スヘキ技手一人宛ヲ配置セルモ單ニ林產物ノ處分ヲ爲スニ止リ造林ニ着手セサリシ南澳、大溪、臺東、里籠、新港ノ五事業區ニ對シテハ造林ヲ開始スルニ至ル迄擔當技手ノ増員ヲ爲サス他ノ事業區ニ於ケル既設配置定員ヲシテ林產物ノ處分事務ヲ兼掌セシメ來レリ

三然ルニ前記五事業區ハ昭和十三年度ヨリ造林ニ着手スルコトト爲リタルヲ以テ新ニ造林ヲ擔當スヘキ技手ヲ其ノ實行官衙タル營林所ニ増置スルノ要アル處南澳、大溪及新港ノ三事業區ハ現ニ造林實行中ノ事業區ニ近接セルヲ以テ技手ノ新規増員ヲ

爲サス隣接セル各事業區ニ於ケル既設定員ヲシテ
之ヲ兼掌セシムルコトトシ東部海岸邊陲ノ地ニ在
リ近接セル事業區造林擔當既設定員ヲ以テシテハ
到底之力實行ヲ擔任セシムルコト困難ナル臺東及
里壠ノ兩事業區ニ對シ技手一人ヲ増員シ造林ノ實
行ニ當ラシメントス

第八 濶葉樹材利用開發ノ爲

技手 一人増 營林所嘉義出張所

一本島ノ林野面積ハ全島ノ約七割ヲ占メ森林資材ノ
蓄積見込數量ハ二億七百二十萬立方米ニシテ其ノ
中濶葉樹材ハ其ノ六割五分ニ相當スルノ現状ニ在
リ而シテ本島森林ノ官行斫伐事業ハ大正元年阿里
山ニ於テ開始セルヲ嚆矢トシ大正四年ニ至リ太平
山、八仙山ノ兩作業地ヲ加ヘ現在之等三作業地ノ

總面積九萬三千四百四十陌ニ於ケル天然材木ヲ伐採利用シツツアリテ事業開始以來昭和十一年度末迄ニ既ニ資材材積四百八萬八千立方米ヲ伐採シタルモ右ハ專ラ針葉樹ヲ利用シタルモノニシテ濶葉樹ニ付テハ米タ大量の用途拓ケス且ツ市價低廉ニシテ收支相償ハサリシ爲從來未利用ノ儘推移シ來タリシカ昭和十一年度末三作業地ニ於テノミニテモ殘存資材材積二千二百八萬九千立方米ノ中七百

九十七萬二千立方米ハ濶葉樹ニシテ約四割ヲ占ムル狀態ナルヲ以テ向後斫伐事業ノ實行ニ於テハ既定ノ計畫ニ基キ單ニ針葉樹ヲ伐採利用スルニ止マラス速ニ適切ナル方策ヲ講シ之等濶葉樹ノ利用開發ヲ圖ルハ最モ緊要事ナリトス

ニ然ルニ濶葉樹材ハ固有ノ材質上製材又ハ加工後ニ於テ割裂、反張其ノ他ノ狂ヒヲ生スル缺點ヲ有スル爲著シク用途ヲ制限サレ延テ材價ノ低廉ヲ招來

スルモノニシテ採伐ノ上完全ナル乾燥ヲ行ヒ之が
缺點ヲ除去スルニ非サレハ到底堅實ナル利用ノ發
展ヲ期シ難ク特ニ本島森林ノ濶葉樹利用ニ付テハ
概シテ市場ニ僻遠シ搬出ニ多額ノ經費ヲ要スル不
利アル爲可及的廣汎且ツ高級ナル用途ヲ開拓シテ
材價ノ向上ヲ圖ルヲ必須ノ要件トスルヲ以テ之カ
利用開發ニ關シテハ適切ナル施設ニ依リ合理的乾
燥ヲ行ヒ固有ノ缺點ヲ除去シタル乾燥材ヲ生産シ

各種ノ用途ニ於ケル實用的價值ヲ廣ク市場ニ認識
セシメ以テ需要ノ増大、材價ノ向上ヲ計リ漸次利
用ヲ増進スルノ方策ヲ樹ツルノ要アリ

三 依テ現在官行斫伐事業ヲ行ヘル三作業地中最モ伐
木、搬出及製材ニ便ヲ得タル阿里山作業地ニ於テ
先以テ優良濶葉樹ノ利用ヲ開始シ完全ナル乾燥材
ヲ生産シタル上需要ノ増大、材價ノ向上ヲ計リツ
ツ漸次一搬濶葉樹ノ利用ヲ促進スヘキ方針ノ下ニ

既設嘉義製材工場構内ニ新ニ木材人工乾燥設備ヲ
設ケ毎年度優良潤葉樹素材一千立方米ヲ採材シ適
切ナル製材ト合理的乾燥トヲ行ヒタル製材品四百
五十立方米ノ生産ヲ得ントスルモノナルモ木材ノ
人工乾燥ハ其ノ施設及處理上専門ノ知識ト技能ヲ
要スル特殊ノ新規事業ニシテ斯業ニ關スル専門ノ
知識及經驗ヲ有スル技術者ニアラサレハ操業ノ適
正ヲ期シ且ツ所期ノ成果ヲ斂ムルコト困難ナルヲ

以テ營林所嘉義出張所ニ差當リ技手一人ヲ増員セ
ントス

第九

氣象ニ關スル官制制定ニ伴フ臺灣總督府官制

中關係條文ノ整理竝ニ測候所技師六人、屬一

人及測候所技手三十四人ヲ氣象ニ關スル職員

ニ組替

一本島ハ帝國ノ最南端ニ位シ夏季ニ於テハ本邦ニ襲

來スル颱風ノ前哨地タリ冬季ニ於テハ内地方面ヲ

襲フ所謂臺灣低氣壓ノ發生地トシテ本邦氣象觀測

上特ニ重要ナル地位ニアルノミナラス最近内外航

空路ノ發達ト共ニ其ノ要衝トシテ將又帝國國防上ノ第一線トシテ氣象事業ノ整備擴充ヲ要スルノ特ニ切ナルモノアリ然ルニ本島氣象機關ハ現行制度ノ下ニ於テハ臺灣總督府官制ニ依リ內務局ニ附屬セシメラレ恰モ内地ノ地方測候所ノ如ク各獨立ニ單ニ地方的氣象事務ヲ執行スル機構タルニ過キスシテ氣象事業ノ主眼點トモ稱スヘキ全島のニ技術的統制ヲ行フ中央機關ヲ缺如スルノミナラス其ノ

配置及内容等ニ於テ最近航空事業ノ急速ナル發達、國防上ノ要求等ニ副ハサルノ憾アリ

ニ依テ之等ノ不備缺陷ヲ是正シ併セテ本島氣象事業ノ整備擴充ヲ圖ランカ爲過般ノ企畫院ニ於ケル全國氣象協議會ノ決定ニ策應シ別途提案ノ通り臺灣總督府官制ヨリ獨立シ新ニ氣象ニ關スル官制ヲ制定スルニ至リタルヲ以テ臺灣總督府官制中測候所關係條文タル第十七條第二項、第十九條第二項及

第三項、第二十七條ノ三ノ規定並ニ第三十三條中
「測候所」ヲ削除スルト共ニ從來ノ測候所定員タ
ル測候所技師六人、屬一人及測候所技手三十四人
ハ之ヲ氣象ニ關スル定員ニ組替フル爲減員スルノ
要アリ

昭和十三年七月二十七日會議議案

秘

昭和十三年七月廿七日	決議
昭和十三年八月四日	公布
勅令第五五八號	

臺灣總督府地方官官制中改正ノ件

参照添附